

大学発イノベーション分科会セッション

◆「大学に期待すること、しないこと」(スタートアップ支援編)◆

【登壇者】

中島 義和

東京科学大学 総合研究院 生体材料工学研究所 教授

1997 年、大阪大学基礎工学研究科博士課程了。博士（工学）。同年、三菱電機株式会社入社。大阪大学医学系研究科助手、東京大学インテリジェント・モデリング・ラボラトリー助教授、東京大学工学系研究科准教授を経て 2017 年、東京医科歯科大学 生体材料工学研究所 教授、現在に至る。日本工学アカデミー 政策提言委員会委員長、日本コンピュータ外科学会 理事、IEEE シニア会員。2023 年 4 月、医療 DX、IoT ソリューション事業を展開する Autonomic Intelligence 株式会社を設立し、計算機科学、情報通信工学ならびに計測工学などの工学技術を基盤とした研究成果の医学・医療での実用化に取り組む。

古谷 優貴

株式会社 Co-LABO MAKER 代表取締役

2011 年に東北大学工学研究科修了。昭和電工株式会社にて、パワー半導体（SiC）の研究開発・事業立上げに従事。自らの体験を元に、研究開発の民主化を志し、2017 年 4 月に株式会社 Co-LABO MAKER を起業。ラボシェアを中心とした研究開発リソースのシェアリングサービスを展開。2020 年東北大学客員准教授（総長プロボスト室）に就任。株式会社 Co-LABO MAKER は 2024 年 東洋経済 「すごいベンチャー100」に選出。

進士 千尋

東京科学大学 イノベーションデザイン機構 副機構長、特任教授

東京大学薬学研究科修士課程修了。特許庁において化学、医療、バイオ分野の審査、審判業務に従事する傍ら、スタートアップ支援施策を担当し、知財戦略構築アクセラレーションプログラムの企画、運営に携わる。2023 年 4 月より東京工業大学（現：東京科学大学）に出向。イノベーションデザイン機構副機構長として GAP ファンド、起業環境整備、他大学や自治体との連携、アントレプレナーシップ教育などスタートアップ創出に関する活動に取り組む。

【モデレーター】

原田 隆

東京科学大学 情報理工学院 リサーチ・アドミニストレーター（主任 URA）

大学発イノベーション分科会セッション

◆「大学に期待すること、しないこと」(スタートアップ支援編) ◆

【概要】

学術研究の成果の事業化によりイノベーション創出をリードするスタートアップの輩出は大学全体の優先課題である。インキュベーション施設の整備やギャップファンド、経営人材のマッチング、実践的なアントレプレナーシップ教育の展開など、各大学は専門部署を配置し、VC・金融機関、大学等発スタートアップ、自治体等の連携などに積極的に取り組んでいる。一方で、大学にて研究支援をしていると、研究者やスタートアップ経営者から、「インセンティブ設計や設立後のサポートが十分ではない」などの声を、従来と変わらず聞く。

スタートアップの設立それ自体は目的ではない。多様なステークホルダーとの協働により「学術研究の推進」と「事業化を通じた研究成果の社会還元」を実現することが目的である。この目的を大学が達成できているかを見直すために、スタートアップの経営やその支援を行う当事者の声を聞くことにより、大学のこれまでの取り組みを批判的に検討する時期に来ているのではないだろうか。

このような問題認識のもと、前半は実際にスタートアップに挑戦している研究者やおよび支援サービスを提供しているベンチャー経営者から、

- ・研究成果の事業化に至る経緯
- ・起業～経営の経験をもとに「当事者」からみた大学におけるスタートアップ支援の現状と課題

について「本音」で語ってもらう。後半は、大学におけるスタートアップ支援担当者を交えて、

「未来社会をリードするスタートアップ創出のために大学は何をするべきか」をテーマにディスカッションを行う。

以 上